

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	活動の人物：論説
Author(s)	蘿月庵主人
Citation	龍南會雜誌， 4 9： 6 - 8
Issue date	1896-10-24
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/4550
Right	

活動的人物

蘿月庵主人

動ありて後、靜あり、靜ありて後、動ありとの言は非なり。動の裡に靜籠れるのみ、靜の裡に動籠れるのみ。換言すれば靜動は一なり。地球は大陽系の軌道上に回轉運行す。地球上の靜は、軌道上の動なり。大陽は極星系の軌道上に回轉運行す。大陽の靜は軌道上の動なり。極星の靜なるも動き、銀漢の靜なるも動く。吾人の見て以て靜となす所、皆動なり。吾人の見て以て動となす所、皆靜なり。

動は眞の動にあらざるなり、靜は眞の靜にあらざるなり。靜動は一のみ、二なるにあらざるなり。其の二なるは、假定の地位よりして『人』の與へし相對的の言のみ、殊別的の語のみ。靜動はたゞ一のみ。靜といひ、動といふの外、その本體ありと知らずや。今其の須臾らく不便なるが故に、之を名けて『活動』といふ。

人類も活動し、禽獸も活動し、魚類も活動し、草木も活動す。天体の大なるも活動し、金石の微なるも活動す。失せし人のなきがらも其の分子の活動するを見、古來英雄の事跡も亦活動するを見る。蓋、靜止は曾て宇宙に無き所にして、活動は萬有の生命なればなり。

人の組織せる國家も亦然り。活動は國家の生命にして、靜止は國家の滅亡のみ。國家の活動は、之を組織する國民の活動なり、而して國民の活動は、その中に存する人物の活動によりて行はる。彼等人物は恰も分子に働きて萬有を活動せしむる方に似たり。彼等は自身を活動せしむるのみならず、又國民をも活動せしむる力を有す。英國は固より既にビット、ヰスレリーによりて活動せられ、佛國は固より既にナポレオンによりて活動せられ、米國は固より既にワシントン、フランクリン、グラランドによりて活動せられ、我國は固より既に徳川家康、大久保利通等によりて活動せらる。グラッドストン

ン、ビスマーク等は現に各自の國民を活動せしめつゝあるにあらずや。

埃及は活動的人物なきが爲に滅び、羅馬は活動的人物なきが爲に滅び、印度も活動的人物なきが爲に滅びぬ。活動的人物の有無によりて國家は或は活動し或は滅亡す。然らば活動的人物の必要知るべし。

九州の地、由來活動的人物に富む。何が故に富む乎。蓋、九州の天地之をして然らしむるのみならず、活動的人物亦この地を慕ふて來れば也。而して今吾校人物の粹を萃めて之を一堂に會す。先には五百有余の同胞あり、今又百有余の已知を仰ふ。其中何ぞ活動的人物に乏しとなさんや。已に活動的人物は必要なり。吾人は竊に我校の他に秀で、この必要を充たすの多きを喜ぶ。

活動的人物固より一ならず。彼等はたゞに一社に於ては一社を活動し、一校に於ては一校を活動し、一國に於ては一國を活動するのみにあらず。政治に出づれば政治に活動し、法律に出づれば法律に活動し、文學に活動し、醫學に活動し、理に工にその出づる所に從て活動す。豈たゞに之れのみならんや。世界も亦彼れにより活動するなり。吾校已に人物の粹を萃む。そのバーク、フオックス、シエック、スピア、マコレー、シルレル、ゲーテ、フランクリン、ウェーブスター、カプー、コッホウイルヒヨ、チンダル、スペンサー輩の如きは紛々として出でんこと、決して疑ふべからず。吾人はこゝに同胞の驥尾に附し、刮目して吾校の將來を觀んと欲す。

或は曰く、我國已に泰平なり。又慷慨悲憤活動的人物の多く出づるを望まず。我國既に外交の難局なし、政界の紛争なく、將來施すべき經綸の大策なく、將來經營すべき百般の事業なし。又何ぞこの時に當りて一校に置けば一校を活動し、一國に置けば一國を活動する底の人物を要せん。と然れども、靜

は、靜にあらず、動は動にあらず、靜動は一にして活動は實に宇宙の生命と知らずや、活動的人物を要する者は亂世よりも寧ろ泰平なるを知らずや。若しこれこれを疑ふものあらば、去て我が頭と東西の風雲と將來の大日本とに向て問へ。

巫 頤 の 辨

淺 井 由 章

左に書きつづくる一節は今の世猶神部の人と巫頤と大なるけぢめあるを知らずては一に思ひ違へてしか／＼云罵るる拙き人に示さんさて物しつるなり素より我身博識なるにあらねば其節々に誤れる事共多からむうは後日さる有識の人々に問ひもしつべし

第一 巫頤の名目及其職掌

和名類聚抄云巫頤 說文云巫無反和名加牟奈岐祝女也文字集略云頤乎乃古加牟奈岐男祝也これなりさるに和名抄に乞盜類に載せて人倫の最下等なる遊女乞兒偷兒群盜海賊囚人など聞くも忌まはしき部門に列ねられたるを見れば實に卑賤極まれる職なる事を知るべし

而して其職とする處は神慮を慰むと云ふにあれど其内實は皆一個の私慾を逞しくするに外ならずかの神おろしと稱へ湯立と呼ぶなる業して巧に人を惑はすもの猶詐偽をもて人を誑すなり順の乞盜類に載られたる理に當れり所謂湯立神おろしなる物は極熱湯をさぐり之を身にあびやがて身心倦勞したる姿して夢ともなく幻ともなく理もなき事を喋舌して神の我身にかゝりて秘密を暴露えたまふ也とて尊び敬ふ其醜き事何にたとへん此事何の時に始まると言事を知らず然れ共我國上古神明を尊ぶより往々刑罰の事神明に托して處置せし事多かりき世下りて應神九年始めて湯立のたぐひ史に見え